



子宮がん検診と一緒にできる

HPV

(ヒトパピローマウイルス)検査

※子宮全摘術を受けられた方はできません。

子宮頸がんの原因は、ありふれたウイルスの感染です。子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）は、感染しても多くの場合は、その人の免疫力によって体内から消えてしまいます。しかし約10%の女性ではウイルスを排除できずに持続感染してしまうことがあり、子宮頸部の細胞に異形成を引き起こし、長い年月を経て子宮頸がんへと進行する場合があります。子宮頸がん検診で行う細胞診は、がんの発見に有効な検査ですが、前がん病変の発見率は約70%です。HPV検査を併用することにより、前がん病変の発見率は約99%となり、予防効果は格段にアップします。



ここで発見し、治療を行えば、がんを未然に防ぐことができます。



～平成26年度より検査方法がより詳細に～  
ハイリスク型HPVの中でも、  
特に子宮頸がんを高率に進展するのが  
HPV16型とHPV18型です。  
従来のハイリスク型HPV一括検出に加え、  
HPV16型・HPV18型感染状況を  
調べることで、よりリスクの高い状態を  
明確にすることが可能となりました。

子宮頸がん検診に追加するだけで同時にできます。  
(子宮頸がん検診時に採取した細胞を使って検査を行います。)